onaho na mukanjou
osananajimi to
junai ni ochiru made

ずっと離さないでね。

無感情オナホな幼馴染と純愛に堕ちるまで

Presented by KURUMAYA KOUDO
クルマヤ公道

放課後
部活もしていない俺は
いつも速足で帰宅する
そんで――
そっち行く
うん
家来い
うん
親が帰ってくる前に
セックス……
もとい性欲処理に興じる
こいつの名前は
秋吉サヤ
俺の幼馴染で…
オナホ
だ

おい
股開け
ギシ…
うん
はい
ハウ
これでできる？
イラ…
だからー
いつも言ってんだろ
スン
イラつくから
一々確認してくんの
やめろって…！

お前はただのオナホなんだから
黙って言いなりになってれば良いんだよ…っ
ガチュ
うん…
ごめん
はぁ
はぁ
ハッ
ハッ
ハッ
ドチュ
ドチュ
ドチュ
はぁ
ブッ
コッ

あ、は、
ビュー
あっ
ビュー
ぐうっ…っ
ふー…っ
ふう…っ
はっ
ドプッ
ドプッ
ドプッ
んっ
ふう…っ
あっっ
ブルッ
ん…っ
口…
うん
ぬっ
んむっ
サヤと―

初めてヤったのは
中学三年の時
俺の部屋で
半ば無理矢理
犯した

それから二年間
ずっとこんな関係だ
サヤはなんでも
俺の言いなりだけど
いつも無表情で
何を考えているのか
分からない

二人でいて
喋ることもない…
つまるところサヤは
抜くためだけの
ただのオナホだ
いつも俺が呼んで
ヤって終わり
淡白な関係——

だけど
セックスは別だ
ふっ
ふっ
ふぅ
あっ
あ
こいつのまんこは
気持ち良すぎる…っ
奥が吸い付いてきて
締まりもすごい…！
生きてるみたいな膣穴
ふっ
あんっ
濡れやすい体質なのか
ローションがなくても
すぐ中をぬめらせる
は
は
あ
まんこ一突きごとに
快感が全身を襲う…っ
『相性』ってやつ？
とにかく最高の使い心地
はっ
はぁ…っ
はぁ
はぁ
こいつに比べたら
普通のオナニーも
オナホですら全然だ

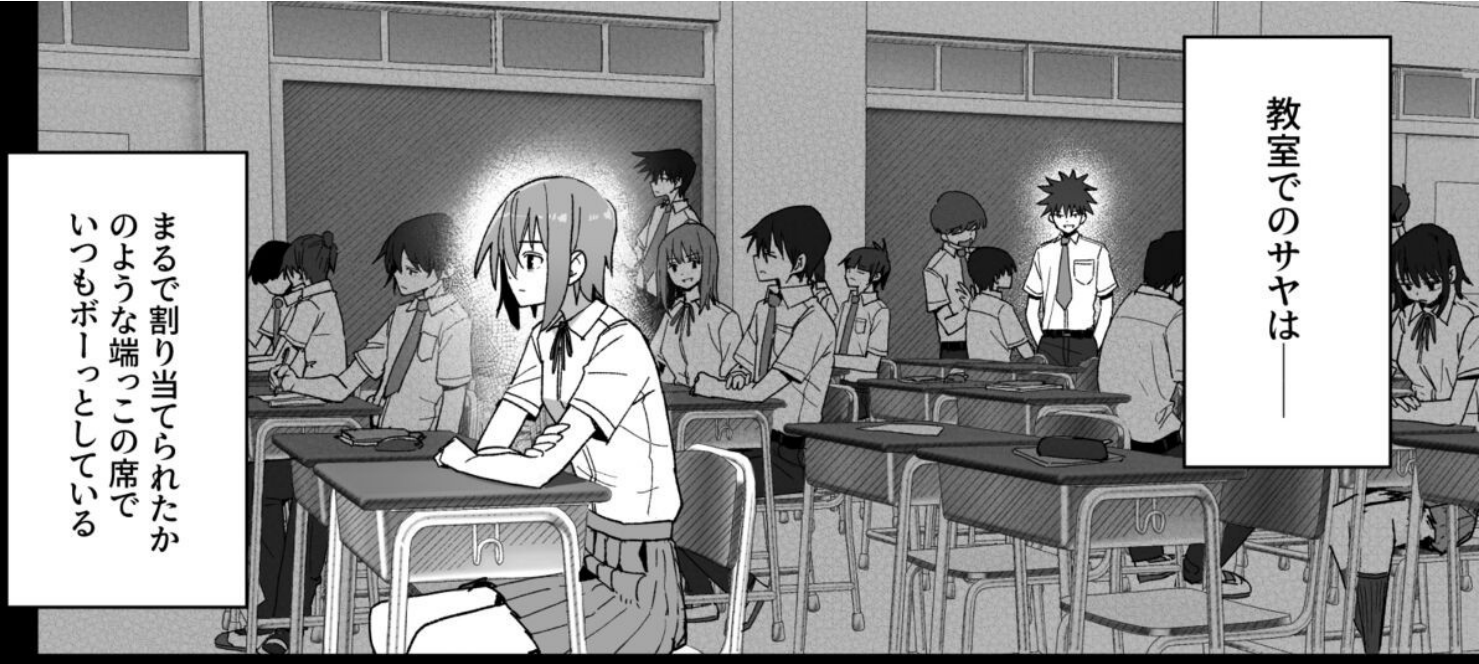
セックスをするたびにこいつに精液以外も吸い取られてるような
そんな感覚に陥るエロい体と肉穴
顔もまあ悪くないし何より従順…！
サヤは最高のオナホ幼馴染だ

ビクッ
ビュルルルル!!
あっ
ドプッ
キュン
キュン
キュン
クパ
クパ
ラブ…っ
ドプッ
ドプッ
ラ…っ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビュー…
はぁ
はぁ…っ
はぁ
ビュー…
はぁ
ラっ…
はぁ
ふ
ふ
ふ
家が近いので
ムラついた時
呼べばすぐに…
俺専用のまんこが
自分から部屋まで
来てくれる

ムニュン
ムニュン
学校遅れるよ
わーってるよ
ドル
ドル
くぁ…っ
締まるっ
ふっ
はっ
はっ
パチュ
ふっ
パチュ
パチュ
あー…っ
射精で精る…っ
はっ
はっ

あ
ぐう…っ
ビュー…
ビュー…
ビュー…
ふうっ
ヒクン
あ
ふうっ
ヒクン
あ
あ
朝まんこきっつ…っ
ビュ…
ビュル…
はぁ…っ
はぁ…
はぁ…

登校前だってこの通り
親が出てった隙にこいつを呼んで一抜きできる
ハッ
ハッ
ちゅ
ちゅる
ちゅ
ちゅ
ねえ
プチュ
時間いいの？
ん…？
あ！
カチ
コチ
やべっ
学校遅れる！
グイッ


教室でのサヤは――
まるで割り当てられたかのような端っこの席でいつもボーっとしている

スマホを見るわけでも本を読むわけでもなくただボーっと…

意味分かんねえ…！
何してんだそれ…!?
と心の中でいつも思う…

そんなんだから友達もいない
だから俺は極力…
陰気くせーこいつと学校で関わらないようにして過ごす

俺にとってサヤは
ただ性欲を吐き出すための
都合の良い幼馴染――…

——そう思っていた
だからさあ後ろ着いてくんなって！
だって帰り道一緒だもん
時間ずらすとか迂回してくるとかしろよ
あんなー…
俺達がなんかあるってだけで恥ずかしいだろ
？
別に気にしないけど？
俺が気にすんだよ！
はあ～～…
もういいわとりあえず脱げよ
玄関（ここ）で？
ここでだ！

はい…
はっ
ごちゃごちゃ言ってても
本当スケベだなお前は…っ
スッ
ﾅｶｯ…
ふっ
ふっ
ニチッ
ニチッ
ニチッ

濡れてんぞ
変態め
は、
は、
ちゅぷ♡
ビクッ
ほ…っ
あ、は、
ビクッ
は、
は、
あっ
はぁ…っ
はぁ、
ビクッ
ゲイニ
ゲイニ
ゲイニ
ゲイニ
ビクッ
あ…っ
あ
んぅ…！
あ、
あっ
ベチョ
ベチョ
あ、
ベチョ
んぅ…
ゲイッ
ゲイッ

ほらイけ
イけよ…！
グチャ
グチャ
グチャ
はは
あー
あ
ガク
ガク
あヤア!!
あ
んふぅ…っ
ガクッ
ガクッ
ドュ
ルン…
あーあー…
玄関べとべと
じゃねーか
うん
ケツこっち
あ、アレやれよ
ねだるやつ
ヒパァ…

私のとろとろに溶けたメスまんこに…
ハァ
ハァ
ヒクッ
ヒクッ
おちんちん挿入してください
ニヂャ
へへ…っ
あ…っゴムねえ
う…んっ
ビクッ
外出しでいいよな？
ヌプッ
ズブッ
あぁ…っ

あーきもち…っ
あっ
あぃ
にゅち…
あっ
にゅち…
ピクッ
あぅ
あぃ
んっ
ピクッ
んっ
はっ
パチュ
んっ
んっ
パチュ
パチュ
今日
みたいに—
サヤにはたまに
感じやすい日が
ある気がする
そういう時
サヤは—…
んっ
あ
体を敏感に
反応させて
喘ぎ声を出す
あんっ
あぃ
ビクッ
はっ
はぃ
はっ
ガチュ
ガチュ
はぁ
はっ
普段と違う
その姿に俺は
たまらなく興奮する
ガチュ
あっ

はぁ…っ
あっ
はぁっ
あぁっ
ビクッ
ビクッ
はっ
はっ
あっ
あっ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
んっ
うぁ…
膣内あつ…っ
ジュ
ジュ
ジュ
ジュ
ガクッ
ガクッ
はぁ
はぁ
あ
あ
あん
あん

あっ
あんっ
あんっ
あんっ
あっ
やっ
あんっ
ふっ
ふっ
あっ
あんっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

射で精る…っ
ビュルルルッ
ビュッ
ガクッ
ガクッ
ガクッ
ビクッ
ビクッ
んおっ
おほっ
お
ほ
ほぉ
んっ
ふっ
ふー…っ
ふー…っ
ドプッ
ドプッ
ドプッ
はぁ
はぁ
はぁ
ぐぅ…っ
ビュー
ビュー

はぁ
はぁ
あ…っ
あっ…
はぁ

やっぱ
生やべーわ
危うく膣内に
出すとこだった…っ

はぁ
はっ
はぁ
はぁ

中出し

はぁ…!?
馬鹿か
デキちまったら
どうすんだよ
クソめんどい
だろーが

…
別にしても
良いのに…

その日、サヤが急に変なことを言い出した

なんだあいつ
怖いこと
言いやがって…
あれじゃ
まるで俺の事…
意味わかんねえ

いつも通りのサヤだ
でもさっきの…
さっきのあの顔……
なんかイライラする…
そういえばあの時だ――…

初めてサヤとヤった時と重なる
あの時もこいつは…
なぁ
いいよな…？いいだろ!?
はぁ
はぁ…っ
ふっ
ふぅっ
犯されてんのに…
ドリィッ
ドリィッ
…っ
は、
は、
は、っ
あの顔でじっと俺を見てて…
それが無性にイラついたんだ
「いいよ」
あ―…
「そしたらサトルとの赤ちゃん産むもん」
もしかしてお前さ…
俺のこと好きなん？

え…!?
う、うん…
そうだよ…
好き…っ
なんで
今更…?
今更…?
え…初めて
聞いたぞ…?
ビュル
あっ
ビュルル…
ラッ
ふラッ
ビュルル…
はぁ…?
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ドプッ
ドプッ
ビュ…
はー
はー
はー
ビュ…

はぁー…!?
ドクン…
え…好き?
告白じゃん
なんだよ
今更って?
じゃあずっと俺のこと
好きだったのか…?
ドクン
まじ?
ドクン

え…?
セフレじゃなかったのかよ
そんな風におれのこと…
ドクン
サトル?
何だこいつ…
ドクン
キュール
キュール
ドクン
意味わかんねえ…っ
ドクン

あんな平然と
俺の事好きって…
初めて
聞いたぞ…？
くそ…っ！
なんだあいつ！
まじで…！
意味わかんねえって
なんなんだあいつ
何だあいつ
何だあいつ…！
くそ…っ！
意味わかんねえ…っ
なんでこんなに
イライラすんだよ…！
キィ…ッ
キィ…ッ

トイレでなんてバレちゃうよ
いーから…！
ほらっ
あ、
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ふっ
くそ…っ
くそ…っ
くそ…っ
ふっ
あ、
あっ
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、
あっ
はぁっ
パン
パン
パン
パン
はっ
気持ち良くするためだけの穴のくせに…
生意気なんだよ…！

ぐう…っ
ビュー
ビュー
ビュー
ビュー
あっ
はっ
はあっ
はあっ
あっ
あっ
くそ…っ
ベタッ
ベタッ
はあっ
はぁ…
くそ…っ
ゴニッ
ゴニッ
ゴニッ
はぁ…っ
ゴニッ
ゴニッ
ぐっ
はぁ
はぁ
あっ
グボッ
グボッ
グボッ
ズプッ

さっきトイレで何回も…
うるせえっていーから股開け
こんなところ誰も来ねえから
はい…

ビクッ
んっ
フーッ
フーッ
フーッ
んっ
んっ
パチュ
パチュ
パチュ

くそ…っ
んっ
んっ
くそ…っ

なんでこんなに気持ちいいんだ…っ
グイッ
グイッ

好きとか…意味わかんねえのに
はぁ、はっ
は、
グッ
グッ

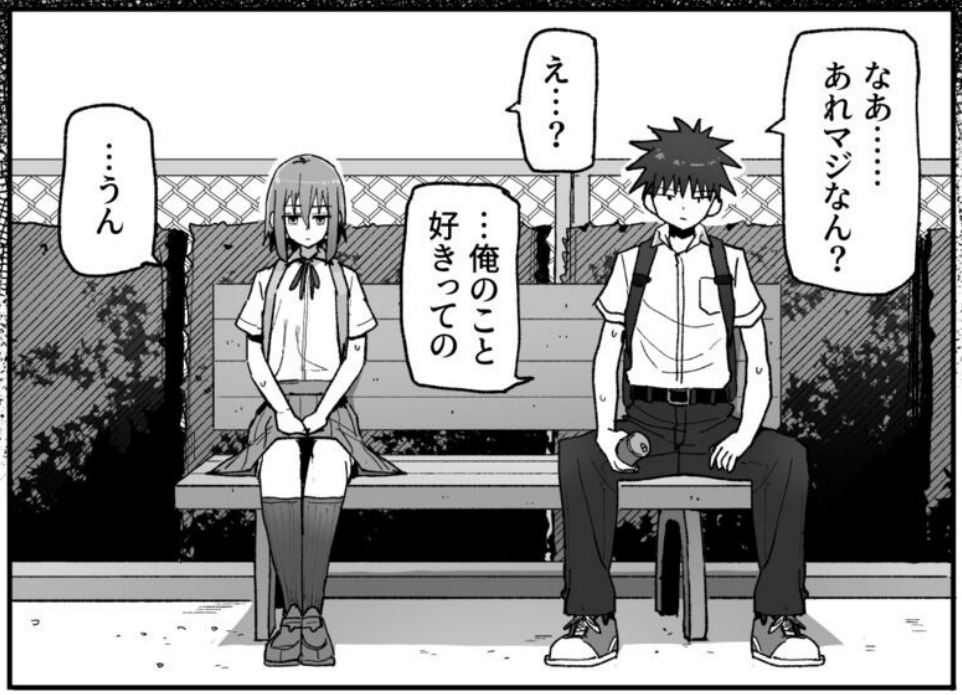
ぐうっ!!
ビュッ
ビュッ
ビュッ
んっ
ふー…っ
ふ…っ
ふー…っ
ビュ――…
ビュ――…
ん
ペロ
はぁ
はぁ
ちゅ
はぁ…
ちゅ…
ちゅ
ちゅ
ちゅ
くそ…っ
ハー…ッ
ハー…ッ
ハー…ッ
なんで…っ
はぁ
はっ
はぁ
なんで俺こんなに興奮してんだよ…っ

それからの俺は
サヤのことで
頭がいっぱいだった

自分でも所在の分からない
その苛立ちを吐き出すように

サヤを呼び出して
犯して、射精する

その繰り返し



と…

そこ

え？

そこの砂場

この公園
いつもお母さんに
連れられて来てた

サトルも

ああー…
だっけな

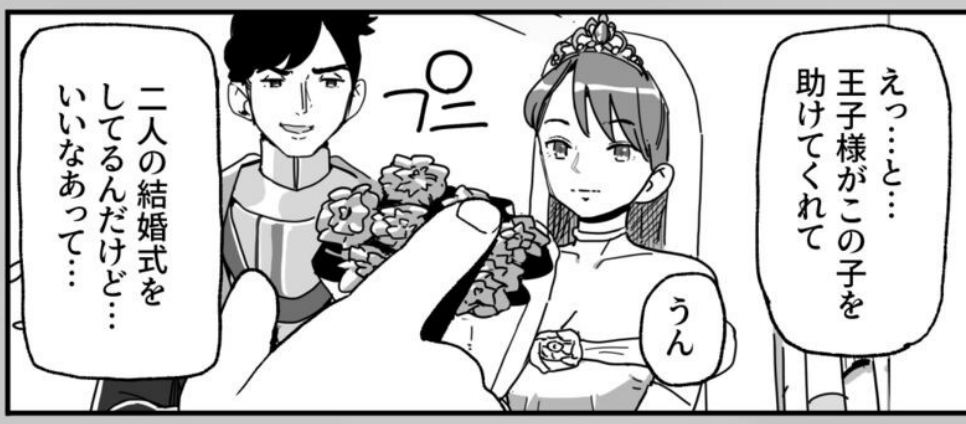
その日私は本を読んで
サトルは遊んでて

ちょうどこのベンチで
お母さんたちが喋ってた

なー
何みてんの？
え…
なんか
笑ってんじゃん
サヤが珍しー

え、絵本…
お母さんが
買ってくれたの
へーー
これが面白いの

こ、これ…
なんこれ？


えっ…と…
王子様がこの子を
助けてくれて
うん
二人の結婚式を
してるんだけど…
いいなあって…

えー…
サヤが
結婚かー
結婚……

私も…その…
してみたいなあって
いつか…うんっ
大人になったら…

!
じゃあさ
俺とするか？
結婚…！
え…!?
だっていっつもさー
おまえ、俺の後ばっか
着いてきてるじゃん
大人になっても
そんなんな
気がするもん
そうかな…
本当にいいの？
おう
パアア
ぜ、絶対ね
約束だよ…！
キュ
おう
約束！
指切りげんまん!!
っていうことが
あったんだけど
覚えてない…？

え…は？
そんだけ?!
うん

まじかよ…！
意味わかんねえ
そんなことで？
ずっと俺の事…
だって…
約束したもん
約束って…
そんなの
覚えてねえし…

てかそんな昔から
好きだったんなら…
はじめに言っとけよ
そしたら俺だって……
あんな…っ

なんでそこまで
俺の事好きで
い続けられるわけ？
嫌いになれよ…
てかなるだろ
お前のこと…
ずっと無理矢理
犯してたのに

HOMO MILK FACTORY
COCO
……

ううん
いいよ…
好きな人と
エッチしたいって
普通でしょ…？
私だって
嫌々じゃないよ
サトルだから…
好きだからだもん
…っ
ふーん…
ミーンミーン
そか…
ミーンミーン
うん
ああ…
そっか
あー……
好きな人とは
エッチしたい…か

そういうことか…
え…？
ちゅっ
ん…っ
ちゅっ♥
ん♥
ちゅっ♥
ん♥
ちゅっ♥
ハッ
ハァ
ハァ
プハッ
キス…
珍しい
もじ
もじ
……っ
いいだろ
別に…っ
うん…
グイ

んむっ
ちゅぷ
んっ
くぷっ
ピクッ
あっ
やっ
ぐぷっ

あんっ
あっ
あっ
あんっ
あ
あんっ
ビクッ
ビクッ
キュ
あう…っ
膣内あつ…っ
あっ
あっ
ハッ
ハッ
グチュ
グチュ
グチュ
グチュ
サヤ…今日スゲー感じてる
それに…甘い声で哭いて…っ
は
はぁ
んぁ
あっ
なんで…っ
そんなゆっくり
ビクッ
あっ

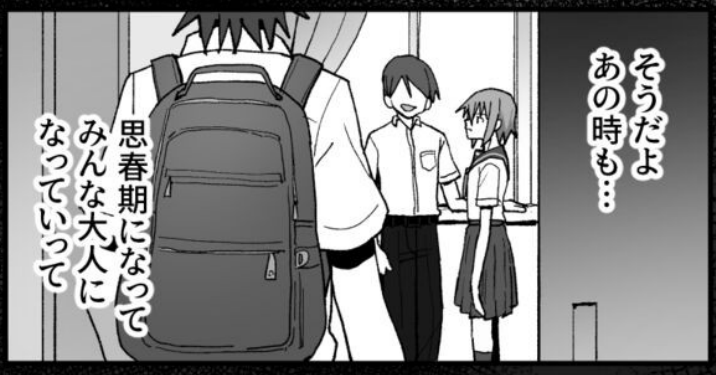
中のここ気持ちいいんだろ
ズリッ
ズリッ
ズリュ
あっ
あんっ
あっ
ズリュ
ズリュ
……
んぅっ
ガクッ
んぁっ
あっ
ガクッ
んっ
トクン…
キュン
なんか…なんだろ
キュン
この感じ……
今までのただ抜いてたセックスと違う
トクン..
トクン..
ゆっくりだけどなんか温かくて…

初めてサヤとちゃんと繋がってる気がする
それがこんなに気持ちいい――…

あっ
あ♡
んぁっ
あぁ…そっか――
あ♡
そういうことか――…
あんっ
はぁ♡

俺も元々…
ガキの頃から
ずっと――…
サヤのこと
好きだったんだよ

無理矢理
犯した…
それを
後悔して
苛立って
またサヤに
ぶつけて


そうだよ
あの時も…
思春期になって
みんな大人に
なっていって

サヤも昔から
近くにいたけど
俺から離れていくんじゃ
ないかって不安で――…

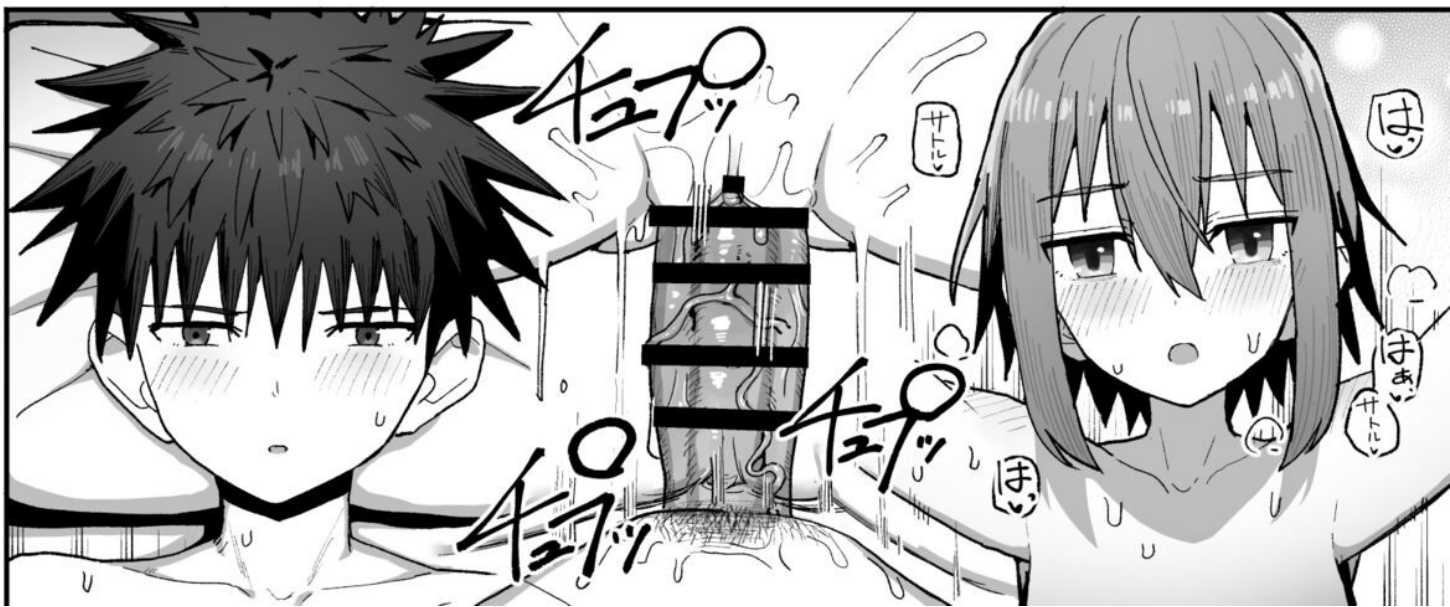
「好きな人と
エッチしたいって
普通じゃない？」

その気持ちに素直に
なれなくて俺は…
？
ビビって必死に
目を逸らしてたんだ

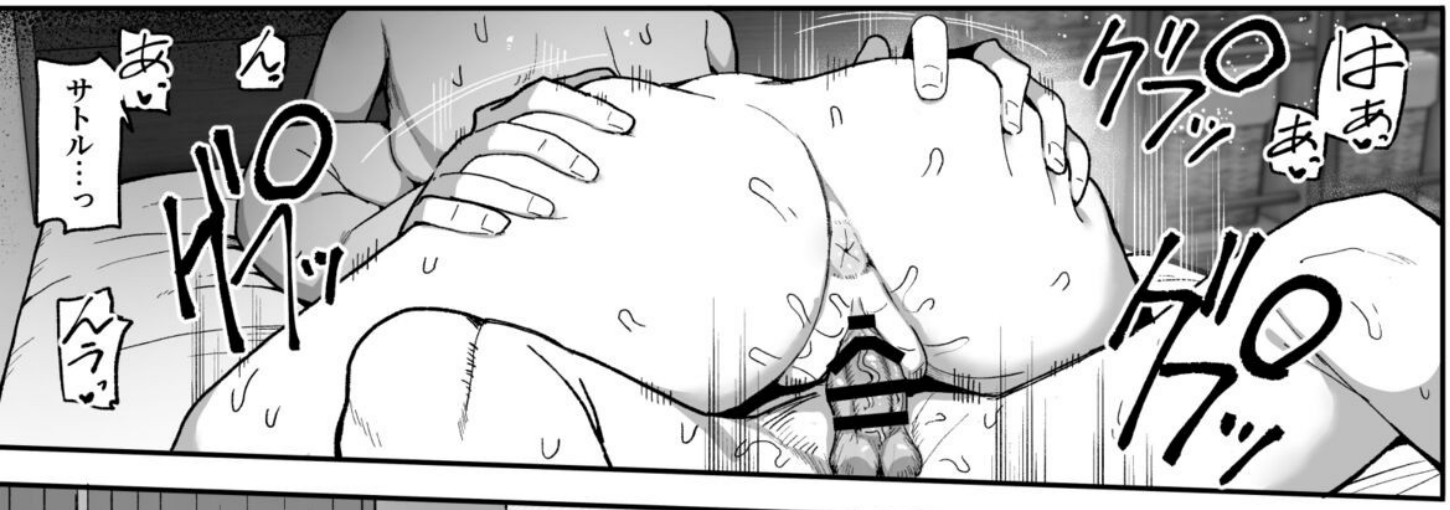
はぁ…っ
あっ
あっ
はぁ…っ
あっ
ねえ、サトル
いつもと違う
ギュ
グイ
グイ
グイ
はぁ…っ
何が…？
優しい
っせーよ
…っっ
ボッ

んむっ
チュッ
んっ
ちゅっ
ヌロ
ヌロ
ヌロ
ヌロ
ちゅっちゅる
んっ
んっちゅ
ハッ
レロ
レロ
ハッ
レロ
ちゅっ
ちゅっ
あっ
あっ
ズボッ
ズボッ
ガシュ
ガシュ
ガシュ
ガシュ

あ…
はぁ…
…
サヤ…？
はぁ…
ドクン…
ドクン…
ドクン…
ドサッ
はぁ
あ、
パチュ
はぁ
パチュ
パチュ
あっ
サトル
はぁ
サトル
サトル


イュプッ
イュプッ
イュプッ
サトル
はぁ
サトル
はぁ

ビクッ
サトルっ
んっ
んっ
んっ
グイ
グイ
グイ
んっ
んっ


あ
ん
サトル…っ
んっ
パ
パッ
グッ
グッ
はあ
あ

サトル…
ん
ちゅぷ
ちゅ
ちゅ
んむ
サトルっ
ちゅ
ちゅ
ちゅ
んっ
ちゅ
ちゅ
んむ
ちゅ
ちゅ
んっ

あぅ…っ
あ
んうっ
キュン
キュン
キュン

ちゅ
んっ
ちゅ
ちゅ
ちゅる
んむっ
んっ

んっ
ちゅぷ
んっ
バチュ
バチュ
バチュ
ちゅっ
んむっ
んっ
ギュッ
んっ

サヤ…っ
ドチュ
ドチュ
ドチュ
サヤっ
はっ
サヤっ
あっ
あっ
ハァ
ハァ
ハッ
ハァ
ガクッ
キュン
あっ
あっ
ガクッ
キュン
キュン
あっ

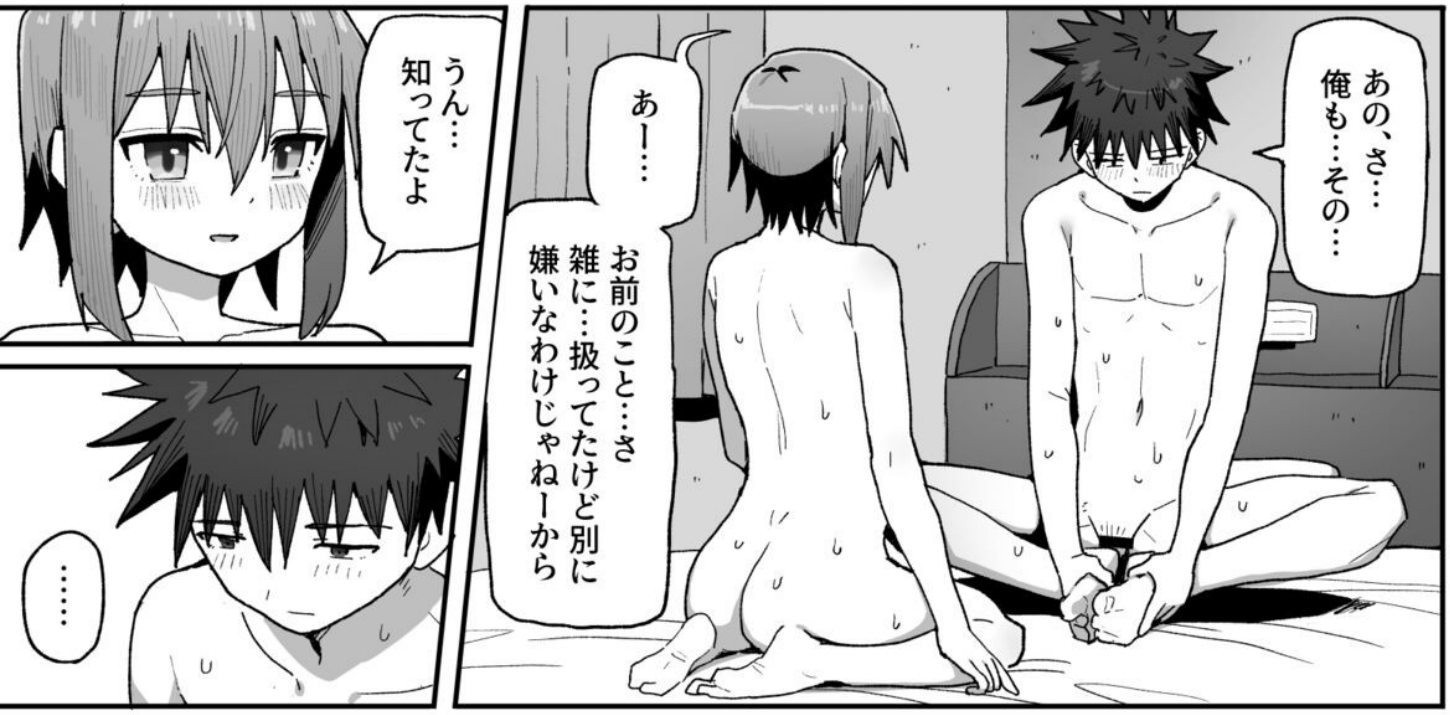
あっ
あぁ
あ
ギュッ
好き…
サトル…っ
好き…っ
好きっ
あ
サヤッ
サヤッ
サトル
あ
サトル
あ
サトル
はぁ
サヤ…っ
あ
サヤっ
は…っ
ギュル
ギュル

ねぇ…サトル
今日は膣内に
射精して…
は…
お前…
お願い…
チュコレ
チュコレ
あっ…おいっ
やめろって
分かったよ…
ギュ…ッ
本当に射精すぞ
射精すからな…っ
うん…きて
全部射精して…♡
ガポッ
ガポッ
ガポッ
はぁはっ
あっ
はぁい
あっ
あんっ

サヤ…っ
サヤっ
サトルっ
あっ
サヤっ
あっ
サトル
サヤっ
もう…っ
射精る…！
きゅううん♡
サトル…っ
射精して♡
あっ
サトル
あっ
あっ
キュン
キュン
サヤ…っ
サヤっ

射で精るっ!!
ビクッ
!!
どぷっ
はっ
あっ
どぷっ
ビクッ
あぁ
はぁ
ヒュー
あ
ビクッ
あ…あっ
ヒュー
ガク
あぁぁ
ガク
あっ
はっ
はぁっ
ビクッ
ドプッ
ドプッ
ビクッ
はぁ
ビュル…
ヒュル…

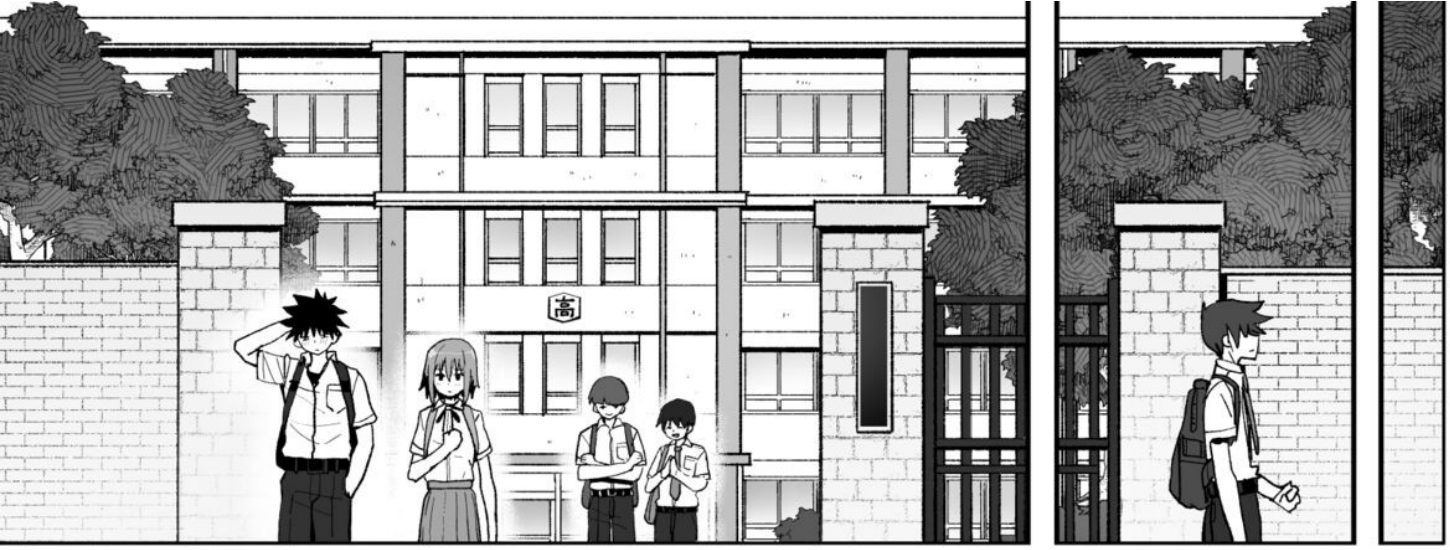
サヤ…っ
ちゅっ
んっ
ビュ…
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ビュ…
ビュ…
ビュ…
サトル…
んっ
ちゅっ
んっ
ビュ…

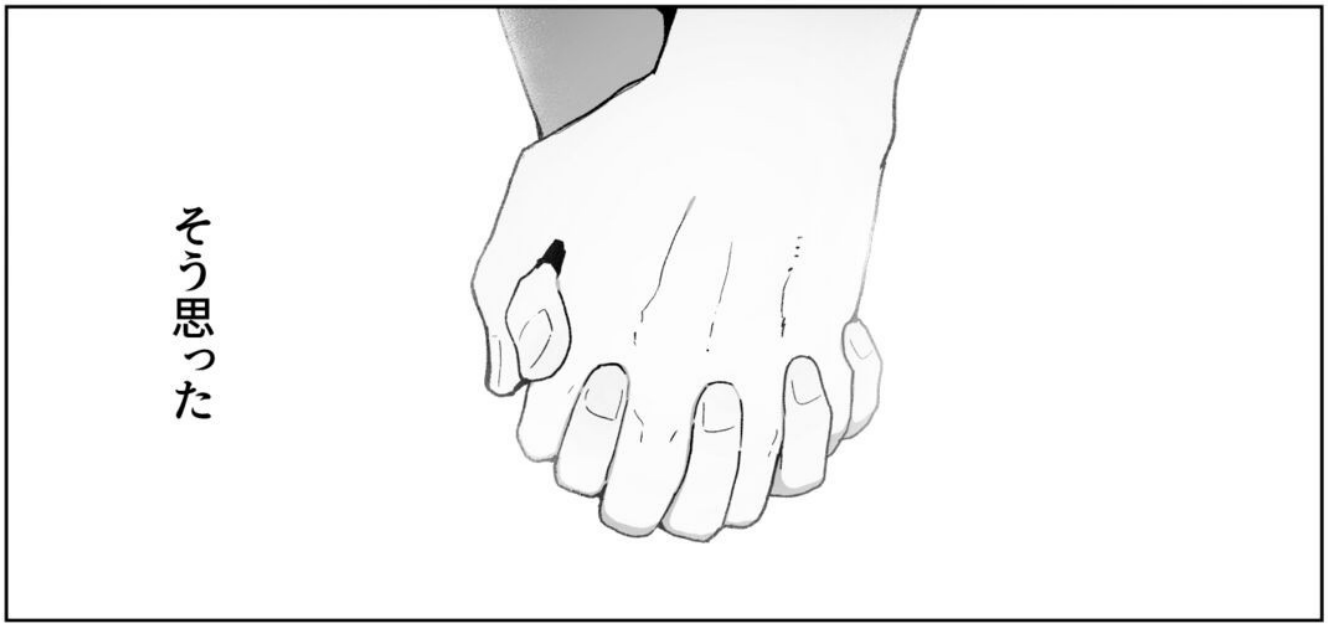

あの、さ…
俺も…その…
あー…
お前のこと…さ
雑に…扱ってたけど別に
嫌いなわけじゃねーから
うん…
知ってたよ
……

そか…
今日うち二人ともいないんだけどサヤのとこは？
夜勤って言ってた
ん…

ちゅっ
ちゅ
んっ
ちゅ
んっ
結局その日は
二人で朝まで
繋がっていた——
ぽつぽつと
会話をして
セックスして
射精して
ちゅ
んむっ
んっ
ちゅ
んむっ
キスをして
抱き合って
不思議と
素直になっていた

そしてふと
笑っている
サヤを見て——…





FIN

奥付

ずっと離さないでね。
-オナホな無感情幼馴染と純愛に堕ちるまで-

発行日：2024年3月21日
発行者：クルマヤ公道
Twitter：@hino_kuruma_ya
Pixiv：@kurumayakoudo

お手に取ってくださりありがとうございます。

今作は思春期の男の子の苦悩、焦燥から
イライラしている感じ。そして女の子の
一途で狂気的な感じ。を書きたかったです。

サヤは可愛くて物静かなのが評判で
クラスの男子から密かにモテてています。

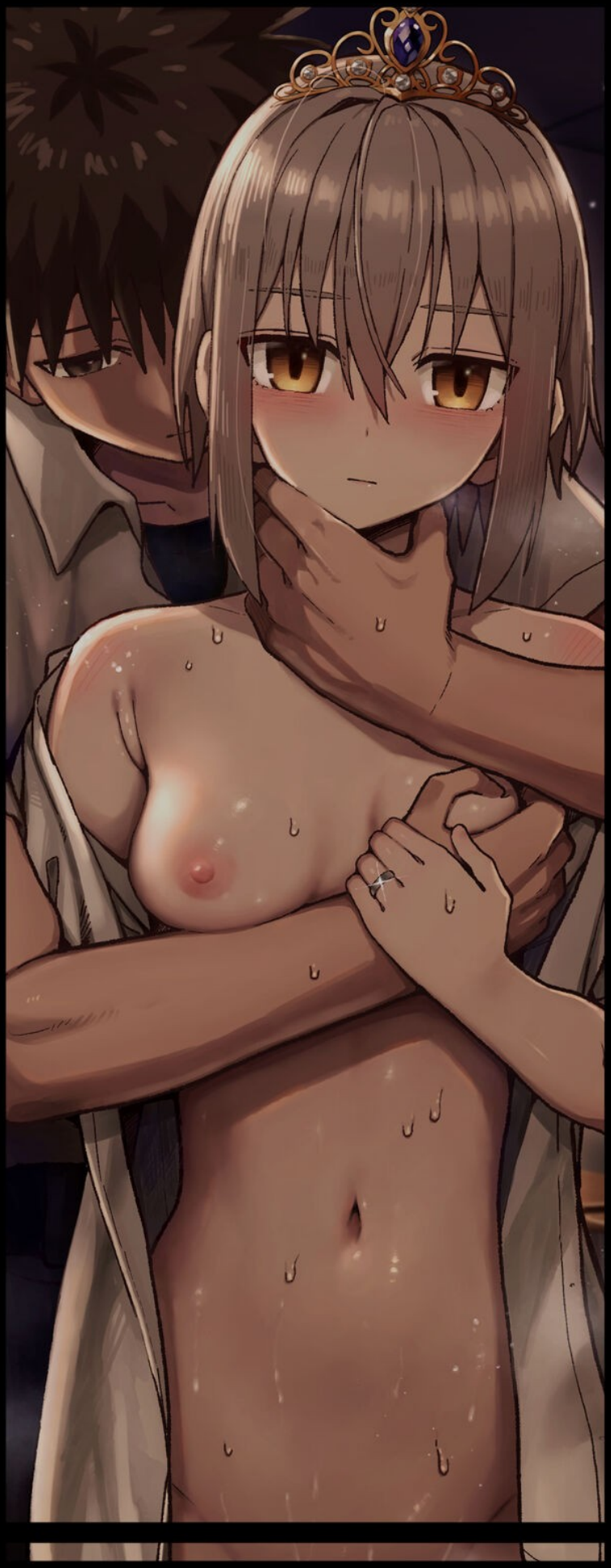
あと
成績はサトルの方がかなり良いです。
でも自分の感情には疎く素直になれないです。

サトルは基本見下し姿勢で他人を見てるので
サヤには余計に素直になれないです。

そういうことを加味しても
サヤはサトルのことが大好きです。

以上です。

感想、レビューなど頂けると嬉しいです。
次刊も是非よろしくお願いします！



*作品の無断転載や複製は禁止しています。

クルマヤ公道
Presented by KURUMAYA KOUDO